

【今回の兼題】

- ① かき氷 ② 風鈴



郁子(土)

鉄風鈴音に偲ばるや昭和ふと
句帳繰る夜半の静寂やちろる鳴く
しきり鳴る軒の風鈴風の道

酔花

ばしゃばしゃと仲間の背越す鯉涼し
○人面のごとき鯉いる寺の夏
祭果て窮屈となる金魚かな

えり

電動のかき氷器や身のほそる
巴里にきく江戸風鈴のジャパネスク
かき曇り無慈悲に叩く夕立かな

富子

夕焼けや七階窓に緋のさして
○しばらくは黙っていたく夕空をみる
マイケルが甦ったか初夏の日に

郁子(岡)

風鈴やややさしき音色風もまた
チリンチリンアイスキャンディー田舎道
七月や清流という名の和菓子

紀美

○反抗期旗を下ろしてかき氷
○遠き日の父の二の腕釣忍
チュチュチチと井戸端会議夏つばめ

迪子

風鈴もあまた揺れば大合唱
浴道で踊り子扇いでかき氷
○老夫婦喧嘩中断水ようかん

綾子

足裏をくすぐり引く波雲の峰
天の川渡り彼方に大宇宙
○園児らの列を乱して青時雨

哲也

○駄菓子屋に原付バイクかき氷
縁側に風鈴吊るすタベかな
図書館の窓に真夏の高知城

文子

かちわりやアルプス席のひと袋
○氷屋のおんちゃん汗かく氷かく
女学生スカート捲り水遊び

農子

○微かな音亡母の土産の鉄風鈴
○寄り道の色とりどりのかき氷
振り花緑の中で輝けり

初江

こわごわと薬味三種のかき氷
○静かさに素焼き風鈴床に落つ
雨なればプラネタリウムの天の川

ゆの

○蜜かけて富士より高きかき氷
○風鈴の明日は雨というて鳴る
哀も悲も抱いて四万十川夏に入る

瑞枝

アイドルの話題沸騰かき氷
○風鈴の音に倦みたる四畳半
○草野球エースの背負い雲の峰



山下 正雄 作品

風鈴が鳴くちははとちははと
少年の自白風鈴身じろがず
少年の二の腕青し新樹光



★次回市民句会

【開催日時】

令和八年九月二十三日(水・祝)

※八月は休会です

午後一時十五分〜午後四時(予定)

【場所】

オーテピア4階 研修室

【兼題】

① 天の川・銀河

② 赤とんぼ・アキアカネ

(他の題材でも構いません)

【初めての方へ】

市民句会は、俳句愛好者の集いです。
どなたでも自由にご参加いただけます。
事前申込や参加費は不要です。

